



新居浜市と松山市における セアカゴケグモ対応状況について



2019年は、複数のセアカゴケグモが卵嚢と共に確認される事例が2事例ありました。生物多様性センターでは現在も市町、関係者と合同で対策に取り組んでおり、定着防止を図っています。県内では5市1町（松山市、西条市、今治市、新居浜市、四国中央市、愛南町）でセアカゴケグモが確認されていますが、本種による咬傷被害は確認されていません。疑わしいクモを見つけた時は、最寄りの市町役所にご連絡をお願いします。

事例① 新居浜市におけるセアカゴケグモ発生状況と対応

2019年8月26日、新居浜市からセアカゴケグモが疑われるクモを確認した旨、生物多様性センターに連絡がありました。写真で確認したところセアカゴケグモの可能性が高かったため、新居浜市職員、施設関係者、生物多様性センター職員で現地確認を実施した結果、駐車場を中心に計37頭のセアカゴケグモと複数の卵嚢が確認されました。8月27日には駐車場以外からも複数の成虫が確認されたことから、駐車場以外の敷地内全域の調査と発見場所への薬剤防除を行いました。生物多様性センターでは新居浜市と施設関係者と協働し、セアカゴケグモ防除方針を取り決めて、各種研修会によるセアカゴケグモ対策の周知と、定期的なモニタリング調査を現在も継続しています。定期的な駆除（成虫と卵嚢の除去）の結果、確認頭数は減少しています（図1）。当該地域からの分散を防ぐためには現在の活動を継続していくことが重要です。



図1 新居浜市におけるセアカゴケグモ捕獲頭数の推移

事例② 松山市におけるセアカゴケグモ発生状況と対応

2018年10月3日と2019年5月7日にセアカゴケグモがそれぞれ1頭確認された場所と同一地点で2019年7月22～23日に13頭のセアカゴケグモが確認されました。複数個体が確認されたことから、松山市と生物多様性センターでは定期的なモニタリング調査を実施することとしました。同時期に敷地管理者が営巣の可能性が高い不用自転車を整理したことから8～9月は低密度で推移していましたが、2019年10月17日に敷地周縁部のフェンス基部から12頭のメス成虫と複数の卵嚢が確認され、繁殖と分散が懸念されました。現在は調査範囲を拡大してモニタリングを継続しており、現時点で分散個体は確認されていません。



セアカゴケグモの特徴

セアカゴケグモは、ヒメグモ科ゴケグモ属に属するクモで、体長は約8～10mm（雌）、体色は黒色で赤い矢印状の模様が腹部表面にあります。また、他のゴケグモ類と同様に腹部裏面に砂時計状の赤い斑紋があります。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在（2019年12月時点）では45都道府県で確認されています。α-ラトロキシンという神経毒を持ち、咬傷被害の恐れがあることから外来生物法により特定外来生物に指定されています。

生物多様性センターにおける特定外来生物などに対する取り組みについて紹介しています。次のページにアクセスしてください。



外来生物の調査

編集・発行

愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター
〒790-0003 愛媛県松山市三番町8丁目234
TEL 089-931-8757 FAX 089-934-6466
URL : <https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity>
Mail : seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp

編集後記

新型コロナウイルスの感染症が世界中で拡大し、WHOがついにパンデミックを宣言しました。日常生活への影響も大きく、各種イベントの自粛がいつまで続くのかわからなくなってきました。センターの自然観察会も新年度、予定通り実施できるかどうか未定ですが、HPで随時お知らせします。季節は春、お花見は自粛ムードですが、こんな時は、道端の「タンポポ探し」をしてみませんか？

えがお 愛顔の生きものの 100年レター

愛媛県生物多様性
ニュースレター

vol.6
(令和2年3月)

小さなコウチュウ、樹液の王子様 ☆ヨツボシケシキスイ☆

ヨツボシケシキスイ *Glischrochilus japonius* は、体長10mm程度の小さなコウチュウの仲間で、夏になると、カブトムシやクワガタムシが集まっている樹液には必ずと言って良いほど見つかります。体は小さいですが、よく見るとクワガタのような大あごがとてもカッコいい昆虫です。夏に、カブトムシなどが集まっているクヌギやアベマキの樹液を見つると、そこに小さな住民、ケシキスイがいないか探してみましよう。ケシキスイを始めとして、実は私たちの身の回りにたくさん生息している小さな昆虫たち。その奥深い世界に目を向けると、自然をもっともっと楽しめるはずですよ。



ヨツボシケシキスイ（雄）

【ヨツボシケシキスイの大あごとオスの戦略】

大あごが大きくなるのはオスだけで、メスをめぐる戦う武器に使います。中でも、ヨツボシケシキスイは、体の大きさに応じてメスと出会うための戦略を変えていることが明らかになっています。まず、小さなオスは、スニーカー（忍び足で近づく意味）と呼ばれ、他のオスと戦わずにメスに近づきます。中間サイズのオスは飛翔分散し、近くに大きなオスのいないメスを探します。そして、大きなオスは、戦ってメスを獲得します。

CONTENTS

- 【図鑑】 樹液に集まるケシキスイを探してみよう！
- 【緊急募集】 あなたも調査者！「タンポポ調査西日本2020」
- 【特定外来生物】 新居浜市と松山市におけるセアカゴケグモ対応状況について



図鑑 樹液に集まるケシキスイを探してみよう!



ケシキスイとは、カブトムシやテントウムシなどのように、上翅が鏡のように固くなっている、コウチュウ目に含まれる昆虫です。日本にはなんと約200種類ものケシキスイの仲間がすんでいます。“ケシキスイ”を漢字で書くと、“芥子木吸”。けし粒のように小さく、木(樹液)を吸う虫、という意味です。しかし実際には、キノコを食べるもの、花粉や果物、動物の骨を食べるものもいたり、アリの巣で生活するものもいたりして、コウチュウ目の中でも非常に多様な生態をしています。そんなケシキスイですが、身近で観察しやすい場所は、やはり樹液です。夏に、カブトムシなどが集まる樹液を見つくと、そこには必ずと言って良いほど、ケシキスイが群がっています。今回は、愛媛県内で見られる、樹液に集まるケシキスイを紹介いたします。



樹液に集まるケシキスイの仲間

コゲチャセマルケシキスイの仲間

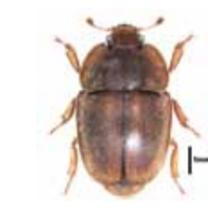
特徴：体はこげ茶色一色。表面に光沢はなく、オスは上翅の正中線上に毛束をもつ種類がいる。



①ホソコゲチャセマルケシキスイ
Amphilrossus hisamatsui
[レア度 ★]
体長4.1-4.8mm。上翅は肩のあたりで一番幅が広い。オスは、上翅の正中線上に一對の毛束がある。



②コゲチャセマルケシキスイ *Amphilrossus japonicus*
[レア度 ★]
体長3.6-5.4mm。ホソコゲチャセマルケシキスイに似ているが、上翅は真ん中あたりで一番幅広くなるので、より丸い体形をしている。



③ナガコゲチャセマルケシキスイ
Amphilrossus lewisi
[レア度 ★]
体長4.6-6.5mm。オスも上翅には毛束がない。前述の2種よりも、体色がやや薄く、体の隆起が弱い。

オニケシキスイの仲間

特徴：体の表面は毛が少なく、つるつるしていて光沢がある。上翅は黒地にオレンジ色や赤色の模様がある種類が多い。



④ナミモンコケシキスイ *Cryptarcha strigata*
[レア度 ★]
体長2.8-4.2mm。肩に“人”型の模様がある。



⑤ルイスコオニケシキスイ *Cryptarcha lewisi*
[レア度 ★]
体長2.7-3.9mm。黒味が強く、肩の模様は“人”型ではなく点になる。



⑥ヨツボシケシキスイ *Glischrochilus japonicus* [レア度 ★]
体長4.0-14.0mm。上翅には赤い模様がある。オス(左の写真)の大あごは大きくなるが、メス(右の写真)は大きくならない。日本産ケシキスイの中では最も体が大きく、個体数も多いので、観察しやすい。

キマダラケシキスイの仲間

特徴：体は平べったく、地色は黄色だが、全体に黒色のまだら模様がある。



⑦オオキマダラケシキスイ
Soronia fracta
[レア度 ★★★]
体長6.6-9.5mm。オスは前脚(前けい節)がナタのような形に変形。とまかく大きい種類で、愛媛では割と珍しい種類。



⑧キマダラケシキスイ *Soronia grisea*
[レア度 ★★]
体長3.9-6.2mm。クロキマダラケシキスイに似ているが、胸(前胸背板)と上翅の模様が異なる。オスの前脚はナタのような形に変形する。



⑨クロキマダラケシキスイ
Soronia lewisi
[レア度 ★★]
体長3.6-6.2mm。キマダラに似る。上翅は黒味が強い。

参考文献/久松定智, 2020. Clavicornia クラビコルニア. <https://sites.google.com/site/nipponokeshikisui/>, 2020年2月1日アクセス.
Okada, K., Nomura, Y. & Miyatake, T. (2007) Relations between allometry, male-male interactions and dispersal in a sap beetle *Librodor japonicus*. *Animal Behavior*, 74(4), 749-755.
Okada, K., Miyatake, T., Nomura, Y. & Kuroda, K. (2008) Fighting, dispersing, and sneaking: body-size dependent mating tactics by male *Librodor japonicus* beetles. *Ecological Entomology*, 33: 269-275.

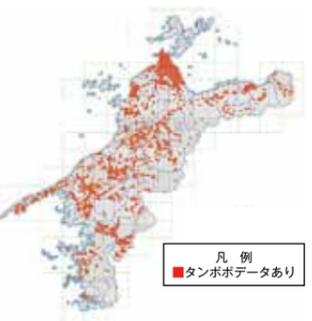
緊急募集 あなたも調査者!「タンポポ調査西日本2020」



愛媛県はタンポポのホットスポットです!!

2019年と2020年の3月1日から5月31日まで、西日本一斉にタンポポ調査をしています。誰でも気軽に参加できる調査で、道端で見つけたタンポポの花と種子と調査用紙と一緒に事務局に送っていただくと、その情報を専門家が取りまとめて公開します。

タンポポには日本固有の在来種と外国から入ってきた外来種があり、愛媛県では、在来種10種類と外来種2種が確認されていますが、特に島嶼部や南予のデータが不足しています。皆様の情報をお待ちしています。一緒に激レアなタンポポを探してみませんか? 詳細については、インターネットで「タンポポ 西日本」を検索し、「タンポポ調査・西日本2020」のホームページを御覧ください。調査方法の解説や調査用紙のダウンロードができます。



愛媛県で確認されている主なタンポポ(「西日本タンポポ調査2015」より)

在来種

普通

シロバナタンポポ
県内で最も普通に見られる白いタンポポであるが、西日本全体ではかなり少ない。花期は12月から冬でも咲いている。四国では高知県と愛媛県に多く、徳島県と香川県では極端に少ない。

レア

キビシロタンポポ
シロバナタンポポに似るが、花はクリーム色。一般的に種子は黒色であるが、本県のものは黒くない。八幡浜市、大洲市、西予市、伊方町、内子町に多く、四国中央市、砥部町、久万高原町でも確認されている。

レア

ヤマザトタンポポ
キビシロタンポポに似るが、花がレモン色。キビシロタンポポとの関係など、まだ謎が多い。県内全体に分布しているが、生育量は少ない。比較的標高の高いところでは、安定して生育している。愛媛県カテゴリーが絶滅危惧2類(VU)の希少種。

激レア

ツクシタンポポ
高地性で花期は5月と遅い。花は午前中に開花するが完全に開かず、その後は花を閉じる。高地性のため、西予市と久万高原町などの高所で確認されている。愛媛県カテゴリーが絶滅危惧1B類(EN)の希少種。

【その他のタンポポ】カンサイタンポポ(在来種)、クシバタンポポ(在来種)、トウカイタンポポ(国内帰化)、シナノタンポポ(国内帰化)、エソタンポポ(国内帰化)、キバナシロタンポポ(シロバナタンポポの花が黄色のもの)も確認されています。

外来種

普通

セイヨウタンポポ
県内で最も多く確認されている黄色いタンポポ。種子の色は黄褐色。低地を中心に県内全域に分布している。

普通

アカミタンポポ
セイヨウタンポポに比べて少なく、特に県南部では非常に珍しい。市街地に多い。種子の色が赤紫色で、セイヨウタンポポとの区別が可能。

在来種と外来種の見分け方



在来種は総苞外片が上向きで内片に完全に圧着しているものが多い(図1・2)。外来種の典型的なものは、総苞外片が下にそりかえる(図5)が、横向きやななめ下向きのもも多い(図3・4)。(図は「タンポポ調査・西日本2020」を改変)

「タンポポの花」と「調査用紙」の送付先

★愛媛県で見つけた方
〒790-0827 松山市鉄砲町1-7 松井宏光方 愛媛植物研究会
タンポポ調査2020・愛媛県実行委員会

★愛媛県以外で見つけた方
「タンポポ調査・西日本2020」のホームページで、各県の実行委員会に送付してください。

参考文献/松井宏光, 橋越清一, 松田久司. 2016. 愛媛のタンポポの種類と分布2015. エヒメアヤマ, 第47号: 9-13.
写真提供/愛媛植物研究会タンポポ調査2020・愛媛実行委員会